

ドラゴンフルーツ

植付け・灌水等

苗が1本植える時には、30～50cmのビニール鉢でも大丈夫です。鉢土は砂質壤土が市販の培養土、或いは両者を混合したものを用います。ドラゴンフルーツは適応力が極めて強く、その他に砂、礫石、等いずれの培地でもよく生育します。定植時には、まず、鉢の高さから7～8cmの高さまで培養土を入れ、十分発酵した有機質肥料を手の平に2回ぐらい入れ、それから苗を乗せ、鉢の8分目まで培養土を入れます。

ドラゴンフルーツは太陽光線がよく当たるところがよく、日照不足のところでは、補光が必要です。小さい鉢の場合には竹の支柱などを用い、大鉢の場合には木柱を用います。

培養土の表面が乾いたら灌水が必要です。灌水時には1000倍の液肥を混入して枝葉の生長を促進し、週2～3回散布します。

剪定・摘心

苗から1～2本の枝を伸ばし主幹とし、その他に発生する枝は剪除します。主幹はヒモで支柱に固定して主幹が支柱の頂きに達したら頂端の枝は先ずは残しておき、30～60cmに伸びたらナイロンのヒモで先端を縛り、支柱に結び、下垂させる。

毎年3月には、長大な徒長枝が出ないように若枝はすべて摘心する必要があります。枝が徒長しなくなると、幹の葉肉中に貯蔵養分が多くなり、主幹の葉肉は短時間で厚くなり色は濃くなる。この時期に有機肥料を追肥する。5～11月には、すべて希望どおり開花結実します。

花蕾と新芽は間違えやすいので注意します。新芽の色はやや濃く長い。花蕾はやや丸く、色はピンクまたは乳白色をしています。注意して観察しないと、新芽の代わりに花蕾を間違えて摘むことがあります。

人工授粉・その他

綿棒などによる人工授粉行います。柱頭、花頭、子房を傷つけると授粉に成功しても、果実は形成されないので注意を要します。

ドラゴンフルーツは豊富なたんぱく質と水分を含有している他、多くのビタミンとミネラルを含んでいる低カロリー果実である。成分の効能は植物繊維で便秘に改善、カルシウム、リン、鉄、で貧血予防、ビタミンB1、B2、B3、で食欲増進、コレステロールを下げ、皮膚の黒ずみを防ぐ、陳昭妃博士の研究により糖尿病患者には、血糖値を確かに下げる効果と免疫を高める効果がある。花は繊維が多く、低カロリーでビタミンC含量が高く、生食としてすぐれている。食感としては、さっぱりと柔らかく、かむほどに滑らかになり、香りがあり甘くおいしい、苦味はまったくない。



種苗



竹か木柱(1～1.5m)
1～2本伸ばし他は切除
花鉢(径30～50cm)



摘心
枝を支柱にしぼる



先端の長若芽



頂芽が長くなった時先端をしばり、下垂させる。



花・果実・鉢の大きさによって1～4本伸ばす。
必要以上に多くし、養分不足を起こさせないこと。